

# あきらめない

URL: <https://youtu.be/eYqgV8aR9mc>

今回は " あきらめない " を学びながら、日本語を勉強しましょう。  
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。  
後半は少しだけ速く (+ 20 %) なり、漢字に " ふりがな " はありません。  
学習にお役立ててください。

## ■わたしのこと

わたしの名前はカレンです。アメリカから来ました。今は東京に住んでいます。

わたしが日本語を学ぶ理由は、日本のアニメが好きだからです。  
子どものころから、日本のアニメをよく見ていました。アニメの中のことはや  
こえが、とてもすてきだと思いました。日本語がわかれば、もっと楽しくアニメ  
を見ることができます。そのため、日本語を学びたいと思いました。

日本語は、むずかしいと坎じるときもあります。新しいことはや字をおぼえ  
るのは、たいへんな日もあります。それでも、少しわかったときは、とてもう  
れしいです。

今日は、「あきらめない」という考えを知ってほしいです。日本語を学ぶとき  
に、大切な心だと思っています。この話が、学ぶときの力になればうれしいで  
す。

## ■「あきらめない」の意味

「あきらめない」は、日本<sup>にほん</sup>でよく使<sup>つか</sup>われることばです。すぐにやめないで、つづけようとする心<sup>こころ</sup>のことを言<sup>い</sup>います。むずかしいことがあっても、前<sup>まえ</sup>にすすもうとする気<sup>き</sup>もちをあらわしています。

日本<sup>にほん</sup>では、いろいろな場<sup>ば</sup>面<sup>めん</sup>でこのことばを聞<sup>き</sup>きます。勉強<sup>べんきょう</sup>でわからないときや、仕事<sup>しごと</sup>でうまくできないときにも使<sup>つか</sup>われます。スポーツでまけそうなときにも、「あきらめない」と言<sup>い</sup>うことがありま<sup>ま</sup>す。どの場<sup>ば</sup>面<sup>めん</sup>でも、人<sup>ひと</sup>の気<sup>き</sup>もちをささえる力<sup>ちから</sup>があることばです。

このことばは、「すぐにできなくても大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>」という考<sup>かん</sup>えにつな<sup>つ</sup>がっています。少し<sup>すこ</sup>ずつづけることで、前<sup>まえ</sup>にすすむことができると教<sup>おし</sup>えてくれます。毎日<sup>まいにち</sup>少しだけがんばることも、とても大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>です。

むずかしいことに出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>うと、だれでもとまることがあります。でも、もう一度<sup>いちど</sup>だけやってみようと思<sup>おも</sup>う心<sup>こころ</sup>が出<sup>で</sup>てくることがあります。この小<sup>ちい</sup>さな気<sup>き</sup>もちを大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>にしたいときに、「あきらめない」ということばを使<sup>つか</sup>います。

このように、「あきらめない」は日本<sup>にほん</sup>で大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>にさ<sup>かん</sup>れる考<sup>かん</sup>えです。学<sup>まな</sup>ぶときだけでなく、毎日<sup>まいにち</sup>の生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>の中<sup>なか</sup>でもよく使<sup>つか</sup>われています。

## ■日本<sup>にほん</sup>の学<sup>が</sup>校<sup>っこう</sup>での考<sup>かん</sup>え方<sup>かた</sup>

日本<sup>にほん</sup>の学<sup>が</sup>校<sup>っこう</sup>では、「あきらめない」という考<sup>かん</sup>えが大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>にされています。先生<sup>せんせい</sup>は、むずかしいことに出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>ってもすぐにやめないでほし<sup>はな</sup>いと話<sup>はな</sup>します。こどもがまちがえたときも、せめるのではなく、その中<sup>なか</sup>にあるがんばりを見<sup>み</sup>ようとします。まちがえることは、学<sup>まな</sup>ぶた<sup>だいじ</sup>めに大<sup>だい</sup>事<sup>じ</sup>なこ<sup>おし</sup>とだ<sup>おし</sup>と教<sup>おし</sup>えるからです。

すぐにできないことがあっても心<sup>しん</sup>配<sup>ぱい</sup>するひつようはなく、少し<sup>すこ</sup>ずつできるよ<sup>よ</sup>うになることが大<sup>だい</sup>切<sup>せつ</sup>だと伝<sup>つた</sup>えます。たとえば字<sup>じ</sup>をおぼえるときに、すぐに書<sup>か</sup>けない子<sup>こ</sup>もいます。そんなとき、先生<sup>せんせい</sup>はゆ<sup>ゆ</sup>っくりでい<sup>い</sup>と話<sup>はな</sup>し、その子<sup>こ</sup>がつづけていることをし<sup>し</sup>っかり見<sup>み</sup>ます。こうし<sup>おし</sup>た教<sup>かた</sup>え方<sup>なか</sup>の中<sup>なか</sup>で、「すぐにできなくても、つづければできるようになる」という気<sup>き</sup>もちがう<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>れます。

日本の学校では、友だちと学ぶ時間もたくさんあります。うまくできない友だちがいても、せめたりわらったりするのではなく、ゆっくり待つ空気があります。みんなが同じ教室で学ぶことを大切にし、その中でおたがいをささえる気もちがそだちます。

先生は、少しできたところをほめることも大事にします。小さな一歩でも、前にすすんだことをきちんと伝えます。そのことばが、またやってみようという気もちにつながります。

このように、日本の学校では「あきらめない心」を毎日の学びの中でそだてています。こどもたちがゆっくりでも前にすすむことができるように、先生はいつも見まもっています。

## ■スポーツでよく聞くことば

日本では、スポーツの場面で「あきらめない」ということばをよく聞きます。スポーツは、さいごまで何が起きるかわからないため、つづける気もちがとても大切にされます。まけそうなときでも、がんばりをやめない心が力になると考えられています。

試合でうまくいかないとき、せんしゅは気もちが下がってしまうことがあります。思ったように体が動かない日もあります。そんなときに、まわりの人が「あきらめないで」と言うことがあります。このことばは、せんしゅの心を前にむけるためのものです。

スポーツでは、自分の力だけでなく、チームの力も大切です。つかれたときでも、みんなでこえを出してささえ合います。だれかがまけそうになっても、チームの友だちが気もちをもどすためにこえをかけます。「あきらめない」ということばは、チームの心を一つにする力があります。

日本のスポーツの中では、さいごまでがんばることが大事だと言われています。さいごの一回や、さいごの一歩で、試合がかわることもあります。だからこそ、どの場面でも「あきらめない」がよく使われます。

このように、スポーツでは「つづけようとする心」がとても大切にされています。むずかしい場面でも、前にすすもうとする気もちが試合の力になります。「あきらめない」ということは、その気もちをささえる大切なことばです。

## ■がんばりすぎない

日本語を学んでいると、うまくいかない日があります。どんなにがんばってもことばが出てこない日や、いつも書ける字をまちがえてしまう日もあります。がんばっているのにすすんでいないように感じて、心がつかれることもあります。

こうしたときに大切なのは、がんばりすぎないことです。気もちが重くなったら、一度休むことがひつようです。休むと心や体の力が少しずつもどります。つかれたままむりにつづけるより、少し休んで気もちをととのえる方が、また前にすすみやすくなります。

うまくいかない日は、だれにでもあります。わるいことはありません。がんばっている人ほど、つかれやすい日があります。ふかくいきをして、気もちをゆっくりさせるだけでも心が少し楽になります。

少し休んだ後で、「もう一回やってみよう」と思えるときがあります。この小さな気もちが、とても大切です。すぐに大きくすすまなくても、小さな一歩で前にすすむことができます。日本では、この一歩を大事にする考えがあります。

休むこととつづけることは、どちらも学びの中でひつようです。休むことで力がもどり、またあきらめない気もちが生まれます。うまくいかない日があっても、ゆっくり前にすすめば大丈夫です。

## ■はげましのことば

日本人は、あきらめない気もちをととても大切にしています。うまくいかない人を、はげますことばがたくさんあります。

たとえば、うまくいかなかったときに「だいじょうぶだよ」と言います。まちがえた人に「つぎはきっとできるよ」と言う人もいます。「ゆっくりでいいよ」「少しずつでいいよ」ということばも、よく聞きます。これらのことばには、その人のがんばりを見ている気もちが入っています。

日本では、学校や仕事の場だけでなく、家の中でもこの考えがあります。子どもがしっぱいしても、かぞくはすぐに大きなこえでしかるだけではありません。「よくがんばったね」「ここまではできたね」と、できたところを見ようとします。そのことばが、またやってみようという気もちを生みます。

友だちどうしても、あきらめない心を大切にします。うまくできない友だちがいても、「一人でだめなら、いっしょにやろう」と言う人がいます。まけた人に「またやろう」「つぎはかてるよ」とこえをかけることもあります。こうしたことばが、友だちの心をあたたくして、前にすすみやすくします。

このように、日本の人がよく使うことばには、あきらめない心をまもる力があります。すぐにけっかを出すことだけを見ないで、「つづけていること」そのものを大事にする考えです。

## ■今日から明日につながる行動

あきらめない心は、少しずつそだてることができます。今日できる小さな行動から始めることが大切です。大きなくひょうがあっても、いきなりぜんぶをやりとしくなくても大丈夫です。まずは一つだけ、かんたんなことをやってみます。

たとえば、日本語を学ぶときなら、一つのことばをおぼえるだけでも前にすすんでいます。5分だけ勉強する日があってもかまいません。毎日少しだけつづけると、心が前にむきやすくなります。少しできたところを見つけると、日本語が少しずつみについていることをかんじられます。

今日できたことに目をむけることも大切です。ぜんぶできなくても、できた部分が一つあれば、それは大きな一歩です。まちがえた日でも、「ここまでできた」と思うだけで、心が楽になります。できたことを見ようとする気もちが、あきらめない心をそだてます。

あした ちい いっぽ だ おお  
明日も、また小さな一歩をふみ出すことができます。大きなへんかがなくても  
だいじょうぶ すこ まえ き  
大丈夫です。少しずつ前にすすむことで、気がつくともくひょうに近づいてい  
ます。きょう ちい こうどう あした ちから ところ まいにち  
今日なの小さな行動が、明日の力になります。あきらめない心は、毎日  
中でゆっくりそだっていきます。

「あきらめない」はいかがでしたか。  
コメント欄から感想をみんなに教えてください。  
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Easy Japanese-listening-SUSHI

